

# 第3回（仮称）台東区産業振興計画策定委員会 議事録

日時 令和6年8月6日（火）  
会場 中小企業振興センター 2階会議室

文化産業観光部産業振興課

1 出席者  
(14名)

委員長 懸田 豊  
副委員長 伊藤 匡美

委員 田村 和義  
委員 金澤 守利  
委員 長堀 慶太  
委員 森本 佳直  
委員 田中 耕太郎  
委員 清田 祐次  
委員 伊藤 康博  
(代理出席 三木氏)  
委員 西島 裕樹  
委員 平川 浩一  
委員 関井 隆人  
委員 内田 円  
委員 上野 守代

2 欠席者  
(1名)

委員 岡崎 健一

3 事務局

文化産業観光部産業振興課

(午後2時00分 開会)

## 1 開 会

## 2 報告事項

### (1) 前回策定委員会の振り返り

○事務局

—前回策定委員会の振り返りについて説明—

## 3 議 題

### (1) 意見聴取会の結果について

○事務局

—意見聴取会（テーマ①「地域資源の活用」）の結果について説明—

○懸田委員長

5つのポイントが整理されたということですが、地域資源の活用について何か質問はありますか。

(質疑なし)

○事務局

—意見聴取会（テーマ②「事業者間のつながりを強化」）の結果について説明—

○懸田委員長

3つのポイントが整理されたということです。大規模改修についてはいつ予定されていますか。

○事務局

現在の予定では、令和8年度より工事を開始するための準備を進めています。

○懸田委員長

ということは、令和6年、7年度の間に案を決めるということになりますか。

## ○事務局

令和7年には設計に着手したいと考えています。

## ○事務局

―意見聴取会（テーマ③「支援機関との有機的な連携」）の結果について説明―

## ○懸田委員長

5つのポイントが指摘されているが、有機的な連携につきましてなにか、ご質問等ありますでしょうか。

## ○長堀委員

台東区はジュエリーの会社が多いのですが、たまたま直近で聞いた話で、台東区にあるジュエリー業界では中堅から大手に所属する企業で取締役をやられていた方が独立して開業したいという相談を受けて、今やはり金融機関では口座開設をするのが厳しいですね。当然ながら開業資金もそんな簡単には出ないということで、開業資金がたとえば創業して3年ぐらい経たないとお金が借りられないというのはよく聞く話で、それは本人も納得しているんですけども、少なくともメガバンクでは銀行口座の開設を全部断られたような話だったので、そういう開業に向けた相談をどこにしたら良いのかというのが、おそらく開業する人ってわからないと思うんです。商工会議所が良いのか、台東区が良いのか、はたまた金融機関が良いのかというのはあるので、そういうのがもうちょっとわかりやすく誰でも理解できるような体制が作れば台東区におけるアントレプレナーみたいな人が増えると思うので、そういう整備ができたら良いなと思います。

ちなみに朝日信用金庫さんに相談してみたら。と返事はしておいたので、その後どうなっているかはわかりませんが、開業を志す人がスムーズに支援を受けられるような体制を作るということも必要なんじゃないかと思いました。

## ○懸田委員長

開業につきましては以前もいろいろと施策を講じているはずなんですけれども、それがちゃんと伝わっていないというところが問題であると。今、長堀委員のご指摘の案件で事務局ではいかがでしょうか。

## ○事務局

ご質問ありがとうございます。台東区産業振興事業団で、開業に関する相談、中小企業診断士の相談を実施しているところですが、今お話があった通り、産業振興事業団の知名度の部分、ご存知いただけていない方というのは多くいると考えております。

そのため、たとえば朝日信用金庫さんをはじめ、支援機関同士で情報を共有して、こういう方は事業団に案内していただくというような、支援機関同士の有機的な連携をこれからも進め、強化していきたいと考えております。

#### ○懸田委員長

ご指摘のように最初の一步をどうしたら良いかということが一番課題になってくるわけですし、それをうまくつなぐことができれば開業資金の融資の件につきましても対策できるんじゃないかと思えますけれど、開業資金の融資はやっていないのですか。

#### ○事務局

開業支援資金は制度としてはございます。長堀委員がおっしゃっていただいた、どこに相談したら良いかわからないということについては、区または区の産業振興事業団、中小企業振興センターの認識度が低いところを課題として認識しているところもございますので、まず資料2-1の4ページ意見聴取会「支援機関との有機的な連携」のポイント3つ目にも書かせていただいたように、地域の身近な存在として、まずはなにか困ったらここに相談してみようと思っていただくよう、周知啓発を強化し、開業にかかるような支援制度などもぜひ活用いただきたいと考えています。このような内容も指針に盛り込んでいきたいと考えています。

#### ○懸田委員長

そういう助成制度はあるわけですが、それをどのように使えるか、台東区に行けと言ってもなかなか、台東区へ行くというのは敷居が高いと感じる方もいると思いますので。いろいろ区の広報を見ればいろいろ書いてあるんですけど、じゃあそれをホームページの中で適切に情報が解説されているかどうかということもありますので、そういう意味では指針というよりも前の段階の課題についても進めていただければと思います。

### (2) 産業振興の新たな指針（骨子案）について

#### ○事務局

—産業振興の新たな指針（骨子案）について説明—

#### ○田村委員

東京商工会議所台東支部の田村です。今、指針のご説明をいただいて、私の意見としては「いい感じ」というのが本当に良い感じだなというふうに思いました。特に「かかりつけ医」のような相談ができるということで、先ほども開業とかそういうことで相談するときどこに相談して良いかわからないというときに、なんでも相談で

きるというのが台東区の指針に書いてあるということであれば、それをとにかく行ってみよう聞いてみようというイメージが伝われば、そこに行けばとりあえず助成金だとか、なんでもできるというようなイメージが皆さんに伝えられれば非常に良いんじゃないかなと思いました。ぜひそういうのをうまく伝えられればなと思いましたし、実際に利用することですごい成果が現れればより良いのではないかなと思いました。

あと先ほど聞いていて、この建物の改修の話があったので思い出したんですけど、燕三条の駅自体が閑散としてなにもないんですけども、そこに場所柄いろんな産業の商品を展示してあって、実際にこの部屋の2倍ぐらいのところいっぱい並べてあって、物によってはその場で購入できるんですよ。ああいうものが、もし新しい建物の中にできればおもしろいんじゃないかなと思いましたし、確か最近では、そういう情報が伝わるようなディスプレイとか相談コーナーみたいなものが確か開設されていたんじゃないかなと思ったので、企業間のつながりとかそういうものができるような仕組みが、少しその建物の中に作ればおもしろいんじゃないかなと思いました。

## ○事務局

我々のビジョンの中で「いい感じ」というフレーズを使わせていただいて、先ほどの説明にもありました通り、区だけではなく事業者の皆様と一緒に進んでいくというところでは、ビジョンで馴染みやすいようなフレーズを使わせていただいて、まずはこれを浸透させることから始めていこうかと思います。区で終わるだけでなく、区のほうで作ったものをどう皆さんに浸透させて一緒に進んでいくかというところにも、その先の課題として感じているものがありますので邁進してまいりたいと思います。

2点目はこちら中小企業振興センターの建物の改修が控えている中で、今お話にありました通り、事業者間のつながりを生み出すような仕掛けが必要というところで我々も検討しているところでございます。また、地域の産業の紹介みたいなのところも、今現在ここは知っている人しか使われていないような施設になってしまっているんですけども、そういった意味ではもっとオープンな施設にして、利用されやすい、誰でも来やすいような施設に変えていきたいと思いますので、こちら指針と並行して改修工事の内容を検討したいと思います。ありがとうございます。

## ○懸田委員長

この建物には、産業振興事業団の事務所のほかに、デザイナーズビレッジが入っているわけですので、以前もオープンにしたらどうかという、デザイナーズビレッジに入っている人たちにいろいろな弊害が出てくるということで、日にちを決めて開放するようにしたいと思います。デザイナーズビレッジは残すのでしょうか。

## ○事務局

今、委員長からお話がありました通り、現在のデザイナーズビレッジについては入居の方がいらっしゃいますので、施設公開の日には公開していないことになっております。ただ改修工事後、まだ決まっているところは少ないですけれども、引き続き台東区の創業支援という形ではデザイナーズビレッジの機能は残していきたい。3階建てですので、フロアの構造とかもいじりながら区民の皆様の、先ほど申し上げたオープンな場所というところも建物の中には作っていききたいなというところで事務局が今考えているところになります。

## ○懸田委員長

工事するときにはデザイナーズビレッジの人たちはいったん出てもらうわけですか。それとも募集せずに、からっぽの状況で建物全体を改修すると考えれば良いわけですか。

## ○事務局

懸田委員長におっしゃっていただいたように、一度入居をストップさせていただいてから、この状態で工事をして、リニューアル後に再度入居者を募集して運営していく予定になっております。

## ○懸田委員長

ありがとうございました。なにかご質問等ございませんでしょうか。私から、資料3の1ページ目で、意気込みとしては実現したい未来を設定して、なにかあとのビジョンの具体的な中身を精査して、現在からビジョンに向けてということがあるんじゃないかなと、なかなか難しいですねということですよ。

それともう一つ、どこまで踏み込まれるのかということなんですけれども、スタンスというのはよくわかるんですよ、携わる人たちが、区の職員がどういうスタンスでやっていくんだ、「どんどん動く」「ニーズをつなぐ」「少しだけおせっかい」と、個々の人たちがどういうスタンスでやっていくのかということは書かれるんでしょうけれども。ミッションを、あるいはビジョンを実現するための組織体制というのはどういうふうに捉えられているんでしょうか。ビジョンとミッション、アクション、あるわけですが、組織として、産業振興という組織をどういうふうにして将来のビジョンに向けて組織を考えるのかということ、組織としてどうするのかということまで書き込むのかどうか聞きたいです。

## ○事務局

まず、指針については策定後、進捗管理等をさせていただきたいと思っている中で

は、指針に定めた事項、また指針の冒頭にもさせていただきます産業の移り変わりが早いというところでは、そこに合わせたような施策があったり、懸田委員長がおっしゃっていただいたような組織の体制だったりというふうに随時検討していかなければならないと考えておりますので、指針の中身、またはそれに合わせた組織体制について皆様からご意見をいただいたりだとか、そういった場で進捗管理のほうは進めていきたいと考えております。

#### ○懸田委員長

組織も柔軟にということをやるといようなことが書かれるということですが、他にありますでしょうか。

#### ○西島委員

所感というところと、あと1点ご質問なんですけど、ご説明ありがとうございます。ひとつ素晴らしいなと思ったのは、施策というところ区の支援策になってしまうので、区だけにならずにという考え方は素晴らしいんじゃないかなと思いました。昔は官民連携と言っていますけれども、最近でも中小企業のお力を逆に借りて社会課題を解決していくとか、特にスタートアップ、開業したての方と一緒に行政の課題にもチャレンジしていく施策も出ておりますので、一緒になって産業振興に向けて取り組まれるのが非常に良い方向だと思いますし、是非そういった方針で進めていかれると良いと思っています。

1点ご質問なんですけど、先ほどの座長のご発言もございましたけども、アクションのところまで今、案として出ているところですが、今後ビジョンというのはアクションよりももう少しブレイクダウンしたものが書き込まれるのかどうかということと、併せて座長がおっしゃっていたバックキャストの考え方、それは私も良いと思っていますけれども、バックキャストをだんだん現実に降ろしてきたときに絵空事にならないようにというか、ちゃんと地に足の着いた、現時点との接続というんですか、そういうところ踏まえながら深堀りしてブレイクダウンして、どこまで書き込むのか、組織体制の話も含めてですが、そこらへんも少し可能な範囲で教えていただければと思います。

#### ○事務局

まずアクションより下のレベル感の記載ということなんですけれども、今回、目指す新たな指針のほうでは社会情勢の変化に対応できる指針としたいというところだと思いますと、あまり細かい記載というのは逆にしないようにしていきたいと考えています。これまで台東区で作ってきた計画ですと、アクションの中にいろんな事業をぶら下げてこの事業をやっていきますと書いてきたが、そう書いてしまうことで柔軟性



が失われてしまうというような経験もございまして、そこについてはあえて今回は書かないでいきたいと思っています。ただしアクションのところはその事業をぶら下げないと具体的なイメージが湧かないという課題もあるかと思っています、そこは区の事業であったり、事業者の取り組みを各アクションごとに紹介していきたいと思っています。

さらに、バックキャストを基本に策定していきますが、今回で言いますと10年後に実現したい未来をビジョンに置いているというところもあって、現在と未来をどのように近づけていくのかというところをしっかりと考える必要があります。また、なんらかの指標を作って、その指標と現状を分析してどういう状況にあるかというのは確認しながら進んでいきたいと考えております。

#### ○西島委員

指標をいくつか作られてということで、理解いたしました。ありがとうございます。

#### ○平川委員

ご説明ありがとうございました。振興公社の平川でございます。今回骨子案を策定して、実際に区内の事業者さん、区民の皆さんにオープンしていくにあたって、今回の資料の作り方から想像すると工夫されているのかなというふうに思っているんですけども、先ほど事務局のほうからご説明があった通り、カタカナであったりひらがなであったりというところを意識的に使っていくというところと、フォントのほうも通常の活字よりは少しやわらかい感じがするかなと思います。実際に事業者等に公表するときに視覚に訴えていくのもすごく重要なことだと思います。今回の取り組みが区にとって少し今までとは違うんだぞというようなところをお見せいただくというのも重要なやり方なのかなというふうに考えております。そういう意味でどういうふうにしてその辺を考えてらっしゃるのかというのがひとつ質問です。

もうひとつは今回、意見聴取会でも参加させていただいておりますけれども、それぞれの支援機関の横のつながりというのも重要なんですけども、今回は台東区さんが中心となるということで、台東区さんの今回、職員のスタンスというところも明示されておりますけれども、それぞれの機関と、それから台東区の担当者との顔の見える形というところを少し定期的になにか仕組みづくりをしても良いのではないかなと。我々としても各区さんから個別のご相談をいただければ、当然それぞれのセッションの中でご協力させていただけると思いますので、それぞれの他の団体さんも同じだと思いますので、ぜひそういうつながりを重視した考え方をお示しいただければというふうに思います。よろしく申し上げます。

#### ○事務局

今おっしゃっていただきました視覚で訴えるということの重要性というのは我々も同じ思いです。今回、指針を冊子にする際には、たとえば区内で活躍しているデザイナーさんなどを使ってイラストやフォントなどについても今回のイメージに合うようなものとなるようにしていきたいと考えています。

また、2つ目のご質問にありました支援機関との連携の仕組みづくりというところにつきましては、我々も今回の意見聴取会でどんな意見が出るかわからない中で、各支援機関の皆様から前向きなご意見、こういうふうに集まる場が良いよねとか、こういう集まりを継続すべきだというようなご意見をいただきまして、今回の計画策定のみを集まりとせず、我々としても継続的に行っていきたいなと思っております。具体的にどのようにやるかはこれから調整させていただきたいと思いますが、それを来年とかではなく、できるだけ早く進めたいと思っておりますのでその際にはよろしくお願いいたします。

#### ○懸田委員長

今、視覚で訴えるということについて、皆様のお手元の封筒を見ていただきますと台東区民憲章と出ております。これは私が座長になってまとめて、なんでひらがなかということで区議会から偉い人から、みんなに袋叩きにあったんですけども、小学生でも障害のある人でもみんなが共有できる、読んでいけるということでひらがなに、区民の方々の要望もあってしたんですけども、そこらへんの表記はよく練らないと、こちらの思いだけではなくて、受け取る方々のご意向もあるでしょうから、そのへんはよく慎重に検討してくださいと、表記については私のほうから要望を伝えております。

1点、ビジョンで、「ココロオドルまち」というのは、カタカナで「ココロオドル」で「まち」がひらがなになっていますが、どちらかをひらがなにするとか、こころがひらがなでしょうから、「おどる」というのはカタカナのほうが良いんじゃないかと。視覚的に「ココロオドル」って読めないんだよね。それは意見ですので、あとで委員の皆様方に聞いていただいて。ひらがなが多いなら良いんですけども、「ココロオドル」ってそもそもカタカナの持つ意味というか、これが「ココロオドル」が良いのかどうか、よくよく考えていただいたほうが良いんじゃないかな。

#### ○金沢委員

確認というか、ここのスタンスの「かかりつけ医」というのは非常に良いと思うんですが、「かかりつけ医」ということになると、患者さんと我々事業者が同一だとした場合、区が十分な説明を我々にして、説明が理解できて、事業者として自発的同意をして、区が言っているものが理解できたらその事業に対して発展的にスタンスを進めるということだと思えますよ。区と事業者が一体というときに「かかりつけ

医」的に実現したい未来を十分な説明をしていただいて、我々事業者がそれに納得して、行動、アクションをして、未来がある程度見えたときにまた区がそのフォローアップができる体制を区のほうでやっていただきたいということが私の意見です。お願いいたします。

### ○事務局

まず「かかりつけ医」の使い方ですが、我々としましてはいわゆる「かかりつけ医」と言いますと、まちにあるなんでも相談できる頼れるお医者さんであったり、必要な時は専門的な医療機関につなぐなどの役割と認識しております。産業振興で言えば、区や事業団が相談窓口や支援機関を繋ぐ役割を担っていくというイメージから、この言葉を選んでおります。

さらには最後にありました事業者へのフォローアップ体制についてですが、新たな指針のビジョン・実現したい未来はあくまでも各事業者さんが考えるいい感じの状態になるというゴールを目指すということであり、いい感じを目指す過程において、たとえば販路開拓などの経営課題を支援機関や区の中小企業診断士に相談いただいた際には、しっかりと受け止めて支援していきたいと思っております。

### ○田中委員

伝統工芸振興会の田中です。質問をさせていただきます。いろいろな体系図のところで見るとアクションと書いてありますけれど、具体的な施策を書かないでいろんなことを例示的に示していくというお話なんですけど、たとえば地域資源の活用についてということでヒアリングをしていて、そんなことを参考に作られるのかなと思うんですけど、1点心配なのは、他のところの、たとえばつながるとかっていうと、エーラウンド実行委員会さんとかそういったグループを作っている方だったり、行政支援機関で皆さんであったりとかっていうんですけど、地域資源の活用についてはいわゆる一般の私企業が1社1社の取り組みだけを捉えているので、それを例示的にやるというのはちょっと奇妙な感じがするので、どんなものかと思ひまして。

### ○事務局

実際にこのあとどういった形でアクションのところを具体的に記載していくかというのはこれからまさに検討していくところで、おっしゃる通りいち事業者さんの取り組みをパッと出したときに、確かにその選ぶ基準と言いますか、そういったところはなにか必要かなと思っておりますので、その基準については改めて考えさせていただいて、次回の策定委員会の際にはそういったところのイメージが湧くような形で資料をご提示させていただきたいと考えております。

## ○西島委員

スタンスのところ、先ほども金沢委員からお話がありましたけど、「かかりつけ医」が私個人的には分かりやすいと思っているのですが、産業振興施策が2つあるとすると、1つ目は挑戦する事業者を応援するとか、成長産業を伸ばすというところ、2つ目は経営課題を抱える事業者さんへ寄り添って支援していきますというところ、後者の部分のみの表現になってくるのかなど。

あまりにもリスクヘッジをしすぎちゃうと自由な表現ではなくなり、真意が伝わらないということもありますが、文言については表に出す際は先ほどのデザイナーに頼まれる絵とか図とかも含め、意匠の問題ですとか、マークの類似の問題ですとか、そういうネガティブチェックをしっかりとされたほうが良いといいます。

## ○伊藤委員代理

台東区信金協議会の三木でございます。台東区のホームページに基本構想が出てまして、平成30年10月に策定されたもので最初の図によりますと、「基本構想とは、概ね20年後を展望して、台東区の将来像を描き、それを区民や地域で活動する団体など一体となって実現するための、区政運営の最高指針となるもの」と。第1章の将来像では、「世界に輝くひとまちたいとう」「住む人、働く人、訪れる人、すべての人々は、安全安心で多様性が尊重された社会の中で、希望と活力にあふれ、いきいきと活躍しています。」とされていて、なにが言いたいかという、ここで住む人だとか区民という言葉が入っていて、今日、この産業振興の指針の資料3の中で「区民」とか「住んでいる人」という言葉が見当たらなかったんです。産業振興の主役は当然区内の事業者であることは理解できて、それを支える、あるいは一体となる行政があると。ただ、地場産業だとか、特に台東区というと観光業、観光関連産業も多くあって、これを誇りに思っている区民がそこにいたり、あるいは台東区をととても良いところだよと広めてくれるのも区民であったり、そういったことから関連すると、たとえば具体的に言うと資料3の3ページの右側の四角の中の真ん中のここは「事業者の本気の想いが、」というところで、「集まり、つながり、にぎわい、事業者も訪れる人も心が動きワクワクするまち」の間でもどこかでも、区民もワクワクしないと始まらないんじゃないかなと思いました。具体的には言いませんけど、台東区と同じように観光産業だったり地場産業だったり伝統工芸が有名という、西のほうに某自治体があると思うんですけど、そのへんももうちょっと資料も見てきて、観光産業モデルを推進するために事業者と行政とあと市民および団体、それぞれ役割分担が明記されていて、たとえば市民、団体ってなにをかという、その自治体の魅力を発信してくださいねとか、あるいは観光客のおもてなしをしてくださいとか、いろんな役割を担ってもらいますよ、そんなことなんです。

従って台東区の産業振興はまさしくちょっと似通っている気がしましたので、どこ

かに区民も一緒になって産業振興に協力してもらいたい、しましょうみたいなことが必要かなと思いました。以上です。

### ○事務局

ありがとうございます。我々のほうでも今回産業振興、たとえば2ページの下のほう、「台東区の産業振興に関わるあらゆる主体は」というところのあらゆる主体の中に、おっしゃる通り区民ですとか団体とか、そういったところというのは入っていると考えております。

確かに表記の中でそういった部分が欠けているところもあるかと思しますので、これについては全体を見ながらそういった要素を入れられるところに含めていきたいと考えております。

今回、事業者は主役だということをしかりと打ち出したいということもあって、それをどこにどう入れるかというのは今後検討していきたいと思しますので、ありがとうございます。

### ○清田委員

ハローワーク上野の清田です。説明ありがとうございました。私、今回事業者と区が一体となって指針を作っていくということで、これもすごい良いことだと思ったんですけど、今回は指針が10年間ということで、長いスパンで実現したい未来でいい感じのところにとどり着けば良いということだと思うんですけど、バックキャストということで、今その時点で何をすべきかということバックキャストでやっていくと思うんですけど、それぞれ10年スパンの中でそれぞれの時期に応じて事業者ごとですとかいろんな産業がありますが、具体的に業界ごとですとか事業者ごとになにかその都度その時期に応じて指針を作っていくような形を示すということになるのかということでお尋ねしたいと思します。

### ○事務局

今回は台東区が事業者と一体となった指針を示して、ビジョンを示してというところではありますが、実際そこに携わっていただくような団体とか、個社が、それを受けてどう持っていくかというところは、やはり各団体の判断というところはあるかなと思っております。

ただし、ビジョンに共感していただいて、一緒になって進んでいただけたところについては、そこはもちろんそういった趣旨の指針ですので、そこは一緒になってやっていきたいと思っております。

一方で、その指針を団体ごとに作るかということ、まずは全体のこの指針を受けて各団体が判断して作るということであれば、それは作っていただいて結構だと思います

が、それを「こういう指針を作ってください」とか、そういった投げかけを団体にすることは考えておりません。

#### ○懸田委員長

産業振興ビジョンの全体の位置付けで基本構想とかいろいろある中で伊藤委員代理指摘の区民というのも重要な要素だけれども、これは産業振興というところのビジョンであるというのが、全体の基本構想はあらゆる建設から福祉からなんとかを含めて全体のものであるので、その辺の位置づけを明確にするべきです。そして観光が別になるんですよ。観光は観光ビジョンを作るんですよ。そうすると産業振興ビジョンの中に観光の文言がどこで出てくるかというのはひとつの要素としては出てくるかもわからないけれども、そのへんの難しさはあるから、全体の位置付けを次回はお示しいただいたほうが良いんじゃないかなというふうに考えます。

カタカナをビジョンで使っているのはどのような意図でしょうか。

#### ○事務局

今回カタカナをあえて使わせていただいた理由としては、カタカナ自体を使うといわゆる親しみやすいというか、少し躍動感が出るとか、というところもあってあえて使わせていただきました。実際に「ココロオドル」という言葉自体もそういう躍動感があるというか、すごく動きがある言葉というふうに思って、あえてカタカナで表現したところではあるんですが、逆に委員の皆様も含めて、このあたりのご意見がございましたらいただければと思います。

#### ○懸田委員長

ココロだけでもひらがなにしておドルはカタカナで良いんだけど、ひらがなにすることによってそれぞれの人が考える「ココロ」というものの意味が出てくるわけですよ。カタカナにして「ココロ」といったら文字にしか過ぎなくなってしまうということがありますので、よく考えてください。

#### ○伊藤副委員長

伊藤でございます。意見聴取会が3回ありまして、そこでさんざんしゃべったので、私、言葉が出ないぐらいだったんですけど、イメージなんですけれども、意見聴取会をやってみて気づいたことというのは、結構区内の事業者さんとか地域の任意団体の方、それぞれ有名な方なんです。だから私はこの意見聴取会に臨むときに、私は皆さんと名刺交換するけれども、皆さん同士は面識がある方なんだろうというふうに思っておりましたら意外とそうではなくて、皆さん同士が名刺交換をしたというのが私にとってはまず最初、結構衝撃でした。ということで、台東区、区が狭いよとか、

人の付き合いが密接だよってご自身たちは皆さんおっしゃるんですけども意外とそうじゃなくて、意外と孤立した中で活動されているというのが私のイメージでございましたし、実際はかなりそれぞれ有名な方だったのに名刺交換から始まって「はじめまして」とおっしゃっているのが、そのへんが気づきでございました。

ということは、今うまくいっているような地域間のつながりとか地域資源の活用というのも、実は結構狭い範囲で行われている可能性があるということを思います。

ということは、もっと大きなつながりとか、もっと大きな活用になる関係性があるのに、そこに至っていない可能性、小さな幸せで「成功だ成功だ」と言っている可能性があるのではないかなということ強く思いました。

ですから、民間事業者と区の役割って違いますので、民間事業者の皆さんは自分たちがメリットがある範囲で連携するし、つながっていくし、地域資源の活用をしていくわけですが、区の立場というのはそれを地域の力につなげていくという部分が区の立場だと思うんですね。そういうような視点を持ってスタンスというのを決めていくということが必要だと思いますので、このコンパスというところの指針、2ページにありましたけれども、そこからビジョンに行く前に、ぜひもっと大きな台東区の産業振興ビジョン概念図みたいなものをちゃんと書いていただくと良いのかなと思っております。

今、台東区、それから事業者、それから区民という話がありましたが、蔵前のカフェに来るのは区民じゃなくて、蔵前のカフェがオシャレだからインスタに載せる写真を撮るためにわざわざ来るわけですよ。こういったふわっと台東区ファンみたいなものを作ることによって台東区は強くなるんです。台東区に住んでいる人だけがカバンを買うわけじゃないから。ふわっとファンというのを増やししながら、つまり台東区の巻き込む力というのを強くしていきながら、底上げをしていく必要があるんで、産業振興ビジョンにあるのですが、区と地域だけを見るんじゃなくて、区外の財布、これを動かすような方針というかコンパスにしていくことが重要なんじゃないかなというふうに考えております。

## 4 その他

### ○懸田委員長

今後のスケジュールはどうなるでしょうか。

### ○事務局

今後のスケジュールなんですけれども、本日のご意見等を踏まえまして、さらに指針の全体像をこれから策定させていただきたいと思っております。それにつきましては、次回第4回策定委員会を10月29日火曜日、午後2時というところで今現在予定しておりますので、その際には本日いただいたような指針の位置付け等を皆様にお示しした

うえで指針の案の全体をお示しさせていただき、ご議論をいただきたいと存じています。

○懸田委員長

全体の目次案が出てここの中には指針が出る前提として台東区の現状であるとか、そういうことも冊子の中で、報告の中では出てくるわけですか。

○事務局

今、委員長がおっしゃいましたように、次回の第4回のときには、最終的に冊子にしていくんですけれども、最終の形を目指しまして、たとえば現状だとか背景だとか、そういったものも含めた形で指針案の全体をお示しするようにしております。

## 5 閉会

(午後3時33分 閉会)